



路政春秋

「判例警見」を讀んで

群馬縣の道路管理がどんな瑕疵があつたかは知る事は出来ないがあゝの親切な田口二郎氏の警見ならぬ批判に依て地方廳の路政に干與して居る者に對して大に力となつたことと思ふ、と云ふのは我G縣は河川縣の事として殊更に橋梁が多い、而かも負擔し切れない程の古橋が豊かなので其處にも此處にも交通量制限の悲鳴の表札が立てられて居るのは見るからに物の衰れをそゝられる

工事の場合の交通禁止は、何だか新建設の爲に路面が占用される感で、何處かに明朗さがあるが、腐朽し切つた古き橋梁に關するときに何時までも此姿を見せつけられ

るかと神經衰弱病に取りつかれそうな思がする、夫れも目立たぬ制札ならまたしも取締令第十八條だとか金看板でなければならぬ、茲に問題がある。夫れは第十八條の働が屈かなつた場合に貨物自動車と共に落橋したときの責任である、此問題は不絶地方の土木出張所長あたりから種々様々の具體的事實に基いての連想的質問が提出される。並木の倒れに依ての損害、本年の如く五十年目かの大雪と來ては全く交通杜絶の爲に及ぼす損害などと行爲、不行爲、注意不注意を種々思ひめぐらすと殆どやり切れないのである。其處理方に目安がつかねて居る折柄なので、何んぞか混亂した頭がストトとした様な氣になつた。田口氏に此

注

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

感謝をさゝぐる次第である。筆の序に「道路の改良」に一寸不平がましい一言を述べること許してもらいたい。「道路の改良」とか「水利と土木」には「自治研究」に見らるゝ様な事務の方の指導的なものが極めて少ないことである。「自治研究」には相當土木に關するものが少なくないが、一月號の田口氏の「判例警見」で數年分の「道路の改良」の代價を一度に取返した思がする。將來は此種の指導的記事が掲載せらるゝことの機會の多からんことを切望する。

(久木田生)

選舉肅正運動の恐怖と躍進

選挙肅正運動が徹底した。そこでさきわらぬ神に崇なしと云ふので、可成選挙に無關心である態度に出るものが少なくない。夫れぢや選挙肅正恐怖病にかゝつたものである。選挙肅正とは各選挙人の公明正大なる判断に依つて最も自由なほがらかな氣持で何の畏る所なく、憚る所なく、投票を爲さしむる爲めの運動である。買収とか、利権附與とか、利益誘導とか、恐喝とか、不正不當な手段で投票を獲得することを禁止防止するのが此運動の目的である。處が豫期しない副作用として種々の恐怖を生ぜしむるに至つた。圓タクの運転手か「且那選挙を棄権したら警察へ呼び出されませんか」と乗客に質問したので、乗客が「イヤ棄権は犯罪ぢやないから警察へ呼びやりやしないが折角の公権ぢやから國民の義務として投票した方が良いのぢや」と教へた。すると運転手が「投票が國民の権利ぢやと謂ふた所で五十銭にもなりません。投票に行つたら

一文にもならず、事故の爲めに警察行きよりはましだけれど棄権して働きませう、誰が議員になつた處で別に私達には關係がありませんから……」と政友會時代の景氣も

民政黨時代の不景氣も議員の力ぢやない、政友會が是ではないが、民政黨も非ではない。日本の經濟的信用は高橋是清氏が藏相であるかないかで定まるのである。無慈悲淡な高橋翁こそ國家本位の政治家である。夫れはともかく千葉縣下松戸地方の婦人達が決議した選良の標準が振つて居る。曰く

一、政治ゴロでなくほんとうに御國のために盡す立派な人。二、贈收賄をした事のな
い人及びその嫌疑をうけた事のない人。三、買収や情實で選挙をしない人。四、議會で暴行しない人。五、妾を持つてゐない人。六、藝妓屋や女郎屋をやつてゐない人。七、婦人の子供の問題について理解ある人。と此中에서도妾を持つて居ない人、藝妓屋や女郎屋をやつて居ない人を指摘し婦人参政權を

目指して躍進するの意氣を示した處に拍手を送らざるを得ない。此二様の氣分は今回の選挙後までも存在するであらう。

(肅正老仙)

街頭の惡風景

兩三年間そんじよそこらで獎勵利用したことの如に記憶しておる、紙芝居は街頭に於ける一惡風景であることは長野縣の某村で村風維持の爲紙芝居の村内に入るを禁じたこともある。紙芝居の百害あつて一利なしといふことは、之を利用することに没念しておる者達には判るまいが、少しく心ある者で兒童の教育に注意するときには斷然紙芝居排斥黨たらざるを得ない。大朝の「大阪辨」に一時の流行と見られてゐた紙芝居は廢るどころか最近ますます子供、就中未就學幼兒の間に根を張つてきた。かれらは毎日一定の場所へ來て拍子木を打ち鳴らして子供を集め、時には不參の子供を

誘ひ出すために子供を使ひに寄越して連行し、甚だしきにいたつては集る子供の出席鐘をつくつて休んだ子供を群集の中で叱責するものもある。観るためには館を買はされるので自然小遣錢を強要して困る、それよりも恐ろしいのは紙芝居の低級な内容が子供に及ぼす悪影響です。純眞な童心を傷つけること甚だしい。しかも卑劣な言葉を覺えてきて大人の顔をもむけさせることがある。と一文があつた。教育家は勿論警察方面でも斷然たる禁止方法を執つてもらいたい。

(吾岡生)

交通禍の防止策は？

道路は改良擴張されて行くが自動車や自転車が愈々益々多くなつて、都會と云ふ都會では交通禍の災厄が益々多くなるので、之れが防止策として信號標が設けられ、ロータリー式交通方法が施されるのであるが遠く臺灣でも矢張同じ運命を辿つて居ると

見へ、今度臺南の佐々木警務部長は次の様に大衆に呼びかけておる、一寸之を紹介する。「一般社會人、特に交通機關に關係ある人々は交通道徳に訴へて道路を愛護して戴きたい、更に交通法則の遵守をお願ひしたい、この念願から今回大掛りな宣傳主旨の普及を計畫し一般人の交通訓練を行ふことになつたのであるが、考へやうによつては州民一致の交通講習會を行つてゐると同じである。目的は公道の保全と、交通上の慘禍絶滅にある。元來本島においては道路らしき道路なく、一般人もために道路に對する觀念が極めて幼稚であつた。これは道路が通れば、土匪が襲來するに便利になるとか、悪疫が流行するとかいふ妙な迷信に禍されてゐたこともあるが、文化の進展は、かゝる幼稚な觀念では濟ませなくなつた。近年全島的に道路の開発は急増してゐる。わが臺南州下の如きもこゝ一兩年間に、一千二百餘里の改良道路が建設されたのであ

る。これら道路網による文化の向上、産業の發展は甚大であることを思へば、文明の生みの親ともいへる道路を保全するのは、州民の義務であり、同時に共同社會に生きて行く社會人の務めである。ところがやゝもすると一部人士はこの道路を阻害して願みないものがある。例へば田畑續きの道路敷を削り取るとか、道路上の土砂、礫石を盗用するとか、または私用のために公益を無視するが如きことが往々ある。斯の如きことは道路建設の主旨に反するのでお互に深く相戒めたい。次に人口増加と社會事象の複雑化に隨つて交通量が激増し、鐵道、臺車、人力車、轎、荷車などの利用より自動車に轉向、交通時間はいやが上にもスピード・アップされて來た。トラック、ハイヤーは市街地より、山間僻地地にまで爆音を恣まゝにしてゐる。内地においては明治四十年にはじめて十六臺の自動車が運轉された。そして十年後の大正五年には一千六百

四十八臺となり、昭和九年末にはなんと十萬五千臺に達した。本島においても大正元年はじめて二臺の自動車が臺北に現はれ、昭和九年末には一躍三千二百四十二臺に増加してゐる。文明の利器がかやうに急増することは結構なことであるが、他面この自動車による災害を検討するに、臺南州下のみにても昭和十年中の交通事故、死者二十一名、負傷者百二十三名を示し、全島の交通事故を見るに、昭和八年度であるが、死者百十四名、負傷者九百四十六名となつてゐる。同年度の内地における統計を見ると死者七千九百二十一名、負傷者四萬六千九百五十名で、このうちの九割は自動車事故である。餘談にわたるがアメリカでは「戦禍より交通禍」といふ標題で大衆に呼びかけ、交通道德の涵養と、交通訓練を繰り返へしてゐる。その發表するところによるとアメリカが歐洲大戰に参加した十八ヶ月間の戦死傷者は二十三萬二千餘名であるのに

路政春秋

反し、一九三五年五月二十日の同期間の交通事故による死者、負傷者数は何と百四十七萬五千餘名、その内容を見ると交通禍による死者は戦死者より一千名多く、負傷者はその約八倍の多きに達してゐる。道路の延長時代、改良時代をすでに過ぎ、施設全盛時代に入つてゐる米國と改良期にある本島を同一に論ずることは無理かも知れないが交通道德、公道保全を行ふことには何ら遠慮はいらないわけである。交通道德といふと六かしいことのやうに聞へるがその内容をいへば、

- 一、左側通行を勵行すること
- 一、車道と歩道を識別實踐すること
- 一、交通妨害を行はぬこと
- 一、自動車の直前、直後は通らぬこと
- 一、家や小路から道路へ俄に飛び出さぬこと
- 一、交通信號に留意すること

といふやうな極平凡なことである。しかし

これが實行出來ぬので不慮の災難にあふのであるから十分に注意して貰ひたい。
(臺北路生)

浪子さんの墓は何處へ？

不如歸の小説で有名な浪子さんの墓は青山共葬墓地に在るが、東京市都市計畫に依り青山一丁目から墓地下に至る現在市電専用道が改良せられて一般交通道路となる。又溜池山玉下市電車停留場から乃木坂を経て舊陸軍射的場に出て青山墓地北邊を貫通し、青山南町六丁目黒木邸裏から右折神宮表參道に連絡する道路が築造せらるゝのであるが、青山墓地内の浪子さんの墓は何處に移さるや？ 武雄さんにあらざるも「不如歸」愛讀生は今から心配に堪へない併し今一路線即ち千駄ヶ谷方面から青山四丁目に出て青山墓地と立山墓地との間の低地を霞町に出て目黒に達する路線が改造さるる

から、此等路線改良工事が完成すれば青山墓地附近は交通の便甚しく良好となるのである。斯くなる爲めに浪子さんの墓の移轉は氣にはかゝるが我慢しなければならぬ。

(青三僧)

河川協會の創立は如何

内務行政の内土木行政は其の本質の上から見て民衆化しなければならぬは、僕等の云爲せずとも世の風に熟知せらるゝ所である。土木行政の民衆化は官僚のみに手に委して置いては徹底し難い點がある。豫算の關係は勿論の事他省他局との關係其の他各方面との關係があるので本省土木局當事者のみでは中々困難な事情があるのである。

夫れで故澁澤子爵水野博士其の他有志の方々が大正八年に道路改良會を創立して道路改良事業實行の爲め官民協力するの機關とならしめて着々其の方面の路政を進歩してゐる。又港灣行政に關しても水野松波兩博士を始め有力者達が、大正十二年の頃港灣協

會を設立し、其の活動に依つて港灣の改良擴張を企て其の成績を擧げつゝある。然るに此二大行政とは切つても切れぬ河川行政を民衆化して其の進展を策謀する爲には未だ何等の團體のあるを見ないので、在學時代より僕は遺憾千萬に感じて居る。僕の生地如き岐阜縣では一段と其の感を深うするものである。土木局の當局各位は勿論、港灣協會、道路改良會の方々も協力して一日も早く河川協會とでも稱する團體を組織し、前記二團體と一致協力して土木行政の發展と其の民衆化を實にせんことを切望してやまぬ次第である。(金華菴生)

社會時勢は轉變す

選挙肅正運動に依りて清く正しく選挙すべしとの叫び聲が普く高く國內に響き渡つた裡に行はれた衆議院議員の選挙の結果は政友會の二百四十二名が百七十四名となつて六十八名を減じ、鈴木喜三郎氏初め小川平吉氏等首領株が落選した、民政黨は百二十七名が二百五名となり七十八名を増加し國盟の二十名は十五名に減じ、

昭和の二十五名は二十名の五名を減じ社會大衆黨の三名は一躍十八名となつて十五名を増加し大勢は確立した、時勢は動いて轉變したのである、此現象に對して種々議論を爲すものが少ないが少くとも肅正運動と司法部の動きが一般に意思の自由を表現せしめ得たと云ふことは争はれぬ處である、政黨の主義主張は選挙民衆の腦裡にどう響いたのか第一黨となつた民政黨も第二黨に退いた政友會も勝つべき處がなく敗けて悲しむべき處もない、時勢の動きは別に存在する處であることを顧慮するの要がある、社大黨が意外に躍進し得たのは普選としてもつと早く出現すべきものであつた、社會主義といへば國家主義に對しても資本主義に對し決して過激なる運動に出てないのが社大黨の行動である、政黨候補者に同情なき選挙者が此方面の候補者に赴いたのは争ふべからざる事實である、言論の重んぜらるべき社會情勢の下に暴力の横行は國民の恐怖し且つ厭惡する處である、公正なる思想は時勢の動きの原動力である處に着眼すべきが政治家の要諦である(國雜仙者)